

利用促進策の事務局検討案

【はなバスの利用促進策を検討する目的】

はなバスは、既存の路線バスではカバーしきれない公共交通空白地域・不便地域を中心にルートを設定しており、市内の公共施設等に向かう交通利便性の地域格差をなくし、利用者の利便性向上を目的に運行しており、運行については、市との協定に基づきバス事業者が行い、収入が運行にかかる経費に満たない場合は、不足額を市が運行補助金として負担している。
 現状の運行補助金は、平成30年度決算ベースで年間約1億2,700万円(市民一人当たり約626円・利用者一人当たり約96円)であり、近年増加傾向にあることから、持続可能なコミュニティバスの運行を行うためには、運行経費の削減の取組と併せて、利用者の拡大を図っていく必要がある、その一つとして地域住民の利用を促すための新たな手法や、庁内他部署との連携による利用促進策を検討する必要がある。

1. 他自治体の取組等を参考にした西東京市における利用促進策の検討について

事務局主体の取組

地域主体の取組

取組事例	西東京市で実施した場合に期待できる効果と課題	他自治体での取組事例とその効果等		実施検討の方向性
		取組内容	実施効果等（電話回答）	
1 グッズの作成・販売	効果 はなバスグッズを作成・販売することで、収入を得ることに加え、はなバスを知ってもらい、愛着を持ってもらい、将来的な利用促進に繋げることができる。 課題 収入を得ることができたととしても、作成に係る経費によっては、必ずしも収支がプラスになるとは限らない。	立川市コミュニティバス「くるりんバス」のミニカーを販売 【東京都立川市】	運行事業者が作成・販売しており、バスに興味を持ってもらう機会にはなっている。 (※販売による市の歳入はなし)	△ 利用促進には繋がる一方で、収支状況の悪化を招く恐れがあることから、慎重に検討したい。
2 運転免許証の返納による割引	効果 運転免許証を自主返納した際に取得できる「運転経歴証明書」所有者が、はなバスを利用する際の運賃を割引きすることで、新たな利用の掘り起こしに繋げることができ、交通安全にも寄与することになる。 課題 割引の方法によっては、収入減に繋がる可能性がある。	運賃支払い時に「運転経歴証明書」を提示していただくこと、運賃が半額になる割引を実施 【三重県松坂市】	これまでは、自動車やバイクを利用されていた方が、バスに乗り換えたと捉えており、新たな利用者が増えている。	◎ これまではなバスを利用されていなかった方の新たな利用の掘り起こしに繋がるため、実施を検討したい。また、これまで自動車やバイクを利用されていた方が、自主的に運転免許証を返納されることで、交通安全にも寄与するほか、福祉的要素の観点からも、実施を検討すべき。
3 感謝デーなどの創設	効果 はなバス感謝デーなどを創設し、該当日だけ割引運賃で乗車可能とすることで、気軽に使ってもらえる機会を増やし、利用促進に繋げることができる。 課題 これまで正規運賃で乗車されていた方が、該当日は割引運賃で乗車することになり、その分は収入減となる。	大規模イベント開催時、市内の路線バス全線を大人100円。小学生以下は無料にする「バスDAYまつもと」を実施 【長野県松本市】	土日のイベント実施時には、通常土日平均利用者数の2～3倍の利用がある。	△ はなバスを利用したことがない方などに、実際に利用していただく機会を創設できるが、実施の時期や制度の周知の方法等のほか、費用対効果も含めて、慎重に検討したい。
4 時刻表パンフレットに広告を掲載し、収入確保	効果 時刻表のパンフレット等に企業広告を入れ、広告料収入を得ることで、収入確保に繋げることができる。 課題 現在の時刻表は、ポケットサイズのため、限られた紙面(枠)の中で募集・選定を行ったとしても、費用対効果が必ずしも得られるとは限らない。	時刻表やルート図を掲載したパンフレット(B4サイズ)に、年額15,000円～30,000円で16枠を募集し、掲載 【神奈川県綾瀬市】	コミュニティバスの運賃収入以外の自主財源を確保できている。	○ 車内広告同様に、時刻表などはなバス関係の刊行物についても、広告収入を得る仕組みづくりは、実施に向けて検討したい。
5 スタンプラリー等のイベントの開催	効果 スタンプラリー等のイベントを実施することで、特に子育て世代を中心に、はなバスに触れて、はなバスを楽しむ機会を創設し、将来にわたってはなバスに愛着を持ってもらうことで、利用促進に繋げることができる。 課題 イベント開催に係る経費により、財政負担の増加に繋がる	夏休み期間中に、市内の各ルート複数のバス停やバス停付近の公共施設等でスタンプラリーを実施 【埼玉県草加市】	毎年実施をしていて、スタンプラリーに参加されている方は増加傾向であることから、利用促進に効果は出ている。	△ 観光振興事業の一環で、庁内他部署でカードラリー等を実施していることから、財政負担等を考慮し、他のイベントとのタイアップなどによる実施を検討したい。
6 地域の応援隊の結成	効果 地域の応援隊を結成することで、地域のことを一番分かっている方々に、自分たちの乗り物として、はなバスを広く地域で話題にし、PRしていただくことで、新たな需要の掘り起こしに繋げることができる。 課題 はなバス沿線に万遍なく担い手を見つけることは、困難な可能性がある。	魚津市民バスサポーターを募集し、①地域内(職場・学校・町内会等)でバスの話題を提供しPR活動、②バス停周辺環境整備などを依頼。(特典:サポーターの方は、市ホームページやバス車内に氏名を掲載など) 【富山県魚津市】	小学校区単位で町内会の組織があり、サポーターはそこから選出して貰い、自身の積極的な利用に加え、職場や学校、町内会等でPRしてもらっており、利用促進に繋がっている。	○ 偏った地域だけにならないようにし、特に課題区間を中心に、その地域の課題として、行政とともに考えていただける方を集めることができるようであれば、検討したい。
7 モニターを集い、情報発信方法を検討	効果 課題区間を中心にモニターを集い、はなバス情報の発信方法等を検討し、はなバスの現状を正確に伝えとともに、魅力的な情報発信を行うことで、利用促進に繋げることができる。 課題 発信方法等の検討を主として、モニターを集めることができるかが課題である。	—	—	○ 情報発信方法の工夫・改善は必要であり、項番6と併せて検討していくべき。
8 サポーターを募集	効果 サポーターを募集し、会費(月額)を支払うことにより、乗車時の運賃が無料となる仕組みを作ることにより、利用回数の増加を図ることができる。 課題 定期的な利用者が会員になると考えられ、収入減に繋がる恐れがある。	市内の中山間地域において、地元有志で結成されたNPO法人により、地域からJR氷見駅前までを結ぶNPOバスを運行。バスの利用には、運行するNPO法人の会員となり、年会費や利用区間に応じた月額会費を納付してもらう。「地域でバスを運行し、守っていく」モデルケースとなっている。 【富山県氷見市】	運行していた民間路線バスが、学校の統廃合の影響等で廃線となり、一時期、市が運行したが、利用が伸びず、地域と対話をして、今の運行方法になった。地域主体の運行になってからは、利用者数も伸びた。	× この手法は、過疎部などを中心に、そこに住む多くの住民が必要な移動手段として、地域主体で運行しているバスに適していると考えられ、現在のはなバスに、同様の取組を実施するのは難しい。

2. 庁内他部署との連携等による利用促進策の検討について

取組事例		実施した場合に期待できる効果と課題		実施検討の方向性
9	イベントの際などに、はなバスを臨時的に運行	効果 イベントに合わせて、様々な場所へ行くことで、はなバスが通らない地域の方々に、はなバスを知ってもらう機会を創出できることや、身近な場所ではなバスを利用できるようにすることで、イメージアップなどが見込めるため、利用促進に繋げることができる。	課題 予備車を使うことになるため、欠車等が発生した際に緊急対応ができなくなることや、現行ルート外の運行となるため、法的な手続きのほか、実際に車両が通行できる道路であるかなど、多くの制限がかかることなどが課題である。	× はなバスを身近に感じることでできる取組ではあるが、容易に運行できるものではないほか、現行ルートの利用促進に直接繋がる取組ではないことから、実施するのは難しい。
10	イベントの際に、はなバスの周知活動	効果 各種イベントとタイアップして、はなバスの周知を実施することで利用促進に繋げることができる。	課題 周知のためのリーフレット等の作成やはなバスの担当職員がイベントに参加する必要がある。	◎ 事務局主体の事業では、はなバスに興味のある方以外への周知は難しい部分が多いが、他部署とのタイアップであれば、はなバスに興味のない方へも情報提供できる機会が創出できるため、実施に向けて検討したい。
11	イベントの際のはなバスの増便	効果 はなバスルート沿線で行われるイベントの際などに、臨時で増便することで利用者の利便性向上やイメージアップも見込めるため、利用促進に繋げることができる。	課題 イベントの参加人数や代替交通手段があるなどの状況によって増便に見合った費用対効果が必ずしも得られるとは限らない。また、臨時便を出すためには予備車を利用する必要があるため、欠車等が発生した際に緊急対応等が課題である。	○ 現在のはなバスルート沿線のイベントを中心に、費用対効果等も考慮しつつ、実施に向けて検討したい。
12	はなバスへのラッピングの施工	効果 ポスターコンクールなどで、児童・生徒や障害者の方などが作った作品をラッピングすることで、コンクール参加者のやる気の向上やラッピングバス見たさに人が集まってくるなど、利用促進に繋げることができる。	課題 ラッピングをするための経費のほか、公共交通としてふさわしいラッピングにできるかは課題である。	△ 教育や福祉部門をはじめ、他部署とタイアップした取組であり、利用促進に繋がる取組ではあるが、費用対効果等も考慮しつつ、慎重に検討したい。